

2021/10/27

(オマケの英語教室 slice) 書庫版



英語で話す相手が必ずしも英語を母国語とする人達ばかりだとは限りません。英語が母国語ではない外国人も沢山居ます。我が国にいる在日就労外国人もその例に違(たが)いません。

当然その人達は英語が母国語である人達に比べて一般的に英語の語彙数少ないのは致し方ないでしょう。

英語を喋るかどうかは別として受験勉強等で鍛えられた我が国国民諸氏は、こと語彙数に関しては下手をすると英語が母国語でない外国人よりも豊富に持っている可能性があります。

又在日就労外国人全てが母国に於いて高等教育を受けた者ばかりとは限らない事を勘案すると益々我が国国民諸氏の方が語彙数に関しては多い可能性が在りそうです。

こういった場合何が起こるかと言えば殆ど英文法を用いずに英単語だけで話す様な機会に接した折、

「当然この単語ぐらいは知っているだろう」

と我々が無意識裡に判定する極めてポピュラーな単語さえ知らないケースに唐突に出くわす事があります。

「えっー!!この単語を知らない!?!」

例えば slice (スライス：薄く切る。トマトスライスなんかです)

ダースベイダーとかスパイダーマンは知っているのに、料理人がこの英単語を知らない!!

「えっー!!うっそー。ほんまかいな!?!」

(当店はカレー屋です)

確かに発音の差でとてもポピュラーな単語でも行き違う場合があるのは確かです。
是また例えば瓶のフタを閉めるように云った時にフタは日本語では栓又は蓋ですが、分かり易い様に「キャップ」と云ったのに是が通じない。
で、後になって分かったのですが日本語で「キャップ」という場合に発音は「kyappu」となり力点が後ろにきますが、彼らの耳にはそれが蓋を表す cap (kæp) の事だとは分からなかった様なのです（英語の場合力点は頭の ca (キャ) に来て最後の p [プ] は殆ど無音です）なので、発音というのは我々が想っている以上に大切な様です。
昔、よく笑い話で米国旅行に行って水の事を「ウォーター」と云っても通じなかったが日本語で「ワラ(ア) (藁：わら)」と言ったら通じたというレベルの発音スキルで十分なのですが。

話を元に戻します。

要するに「我々にとってポピュラーな単語さえ知らない場合」どうするか？

こうした場合は「そのジャストな単語」の代わりに

- (1) 名詞が表す用途を簡単な言葉で示す。
- (2) 動詞が示す行為を簡単な言葉を使ってシーン描写する。
- (3) 又は名詞や動詞が示す物や行為の「目的」を簡単な言葉で説明する、

事で遣り繰りしております。

冒頭の例でいえば直上 (2) の例で

Slice (当店の外国人従業員は slice も cut もカットと言います)

を

Slice is(=means)

Put a knife on the tomato. And hip(=edge) of knife steel, push into (=pick up or hook it on the) tomato skin , then next, move the knife to(=towards)yourself(own).

Like this.

(スライスってというのは(例えば)ナイフをトマトの上に置いて、その尻切っ先をトマトの皮に引っ掛けてから手前に引いて薄く切る事が slice だ。こんな風に)

余談)

自分は毎回現物無しでこの手の「実演ショー」をしております。